



令和5年度 幸手市道徳のまちづくり講演会

令和5年11月18日(土)アスカル幸手会議室

I 趣旨と今年度の取組

幸手市教育委員会では、人々が温かな気持ちを持ち、豊かに生きようとする「道徳のまち さって」として、幸手市の幼・小・中学校の道徳教育を一層充実させるとともに、市民の道徳性を醸成することを目的として、幸手市道徳教育推進協議会議を設立し、市民と協働して取り組んでおります。

そこで、幸手市内の小中学生や保護者等を対象とした講演会を通して、生涯にわたって住みたいまちとなるよう、まちづくりについて考えるきっかけを作ることを目的として本講演会を実施しました。

次代を担う児童・生徒が未来の夢や目標を抱き、多様な価値観の存在を認識し、自ら感じ、考え、他者と対話し協働しながらより良い方向を目指す資質・能力を育成するには、道徳教育をより一層充実させていく必要があると考えております。そのためには、学校・家庭・地域社会相互の連携・協力が不可欠です。

今年度の講演会は、幸手市内の小中学生、保護者、幸手市で活動する諸団体にお声がけし、老若男女の垣根を越えて、児童生徒による発表や講演を聞くことで、一緒に街づくりについて考えるきっかけを作ることができれば、という願いを込めて開催しました。

前半は、児童・生徒による発表の部とし、昨年度実施した幸手市SDGs道徳プロジェクト「ありがとう作文」、今年度10月に実施した幸手市児童生徒PBL&プレゼンテーション講座の2つより、それぞれ代表児童・生徒による発表を行いました。後半は、有限会社アップライジング代表取締役社長・齋藤幸一様による講演会を実施しました。

児童・生徒による発表

○幸手市SDGs道徳プロジェクト「ありがとう作文」の発表

令和4年度「ありがとう作文」の入賞者から、代表して2名の児童・生徒が発表を行いました。日々の生活を振り返ると、私たちは様々な人と関わり合いながら生活しており、そういう方々から多くの活力をいただいております。子供たちの作文を通して、普段何気なく接している身の回りの方々に、日頃より感謝の気持ちをもって生活することの大切さに、改めて気付かされました。

○幸手市児童生徒PBL&プレゼンテーション講座の発表

本講座は、次のことを目的として、市内小中学生の希望者を対象に7月8日から計10回行いました。

- ・児童生徒が、「わたしの気づき、疑問、願い」をテーマとした探究学習(PBL)を行う。

- ・そこで学んだことについて、相手意識や目的意識をもった「分かりやすい」「効果的な」プレゼンテーションを作成し、発表する経験を通して、情報活用能力や非認知能力の向上を図る。
- ・ICT を利活用し、自分の考えや思いを、原稿に頼ることなく相手に伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を図る。

今回の講演会では、受講者代表生徒が「ネットを正しく使うために」という題で発表を行いました。インターネットが身近になってきた現代において、一人一人がネットリテラシーを高め、上手に活用していくことの大切さを改めて感じました。

講演 演題 「ハングリー精神から利他の精神へ」

講師 有限会社 アップライジング 社長 齋藤 幸一 様

高校、大学時代はボクシング部でキャプテンを務められ、様々な大会で輝かしい結果を収められてきた齋藤様。平成 18 年には 30 歳という若さで現在勤められている「アップライジング」社を設立されました。また、29 年には第 3 回ホワイト企業大賞にて、「人間経営賞」を受賞されるなど、社会の幸せと働き甲斐、社会貢献を大切にされ、ご活躍されています。



しかし、ここまでの道のりには様々な苦難があり、それらを乗り越えていらっしやいました。今回の講演会では、齋藤様のこれまでの人生、そしてどのように現在に至ったかをテンポよくお話していただきました。

目標に向かって努力を惜しまない姿勢、自分の力を信じて立ち向かう勇氣、そして周囲の人を幸せにする人間力。齋藤様の考え方には、様々なことを乗り越え、道を切り開いていくヒントがありました。



<講演会の言葉より>



あなたの夢の実現に向けて後押ししてくれる言葉と、使わない方がいい言葉。

魔法の言葉 出来る 大丈夫 余裕 余裕
マイナス言葉 駄目だ 出来ない 緊張する